

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 9 月 25 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	商学部
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2025 年 9 月 20 日
明治大学卒業予定年月	2028 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(日本語名) University of California Los Angeles(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025 年 6 月～2025 年 9 月
留学先大学で在籍した学年	2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月中旬～12 月上旬 2 学期: 1 月上旬～3 月下旬 3 学期: 3 月下旬～6 月中旬 4 学期:
学生数	33000 人
創立年	1919 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ドル) (1 現地通貨 = 148 円)	B 日本円	備考
授業料	4620	円	
宿舍費	5630	円	ミールプラン含む
食費		10000 円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		15000 円	90 日無制限
現地交通費		円	(☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)		250000 円	
被服費		150000 円	
医療費		円	
保険費		35000 円	形態: 明治大学で指定されたもの
渡航旅費		226000 円	
ビザ申請費		30000 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	(=1517000 円)	716000 円	
総計(A+B) ※円		2233000 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

※

渡航関連			
渡航経路			
往路 出発地:	成田国際空港	目的地:	ロサンゼルス国際空港
経由地:			
復路 出発地:	ロサンゼルス国際空港	目的地:	羽田空港
経由地:			
渡航費用			
① 往復チケットを購入した場合			
航空会社:			
料金:			
② 片道ずつチケットを購入した場合			
往路 航空会社:	ZIPAIR	料金:	102210 円
復路 航空会社:	デルタ航空	料金:	123920 円
		∴合計:	
航空券購入方法			
☒ 旅行代理店(店名: trip.com)			
☐ インターネット(サイト名:)			
☐ その他()			
滞在形態関連			
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)			
☒ 学生寮(寮の名前: olympic hall) ☐ アパート ☐ ホームステイ			
2) 部屋の形態			
☐ 個室 ☒ 相部屋(同居人数 3)			
3) 共有部分			
☒ バス ☒ トイレ ☐ キッチン(☐ 自炊可 ☒ 自炊不可)			
4) 住居を探した方法:			
留学前に、以前 UCLA に留学した先輩方にどの寮がおすすめかを聞き、情報を参考にして住居を決めました。			
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)			
私は Olympic Hall(オリンピックホール)を選びました。 理由は、Saxon Suites(サクソン)は警備が比較的緩く、昨年事件があったと聞いたためです。また、サクソンは階段しかないのに対し、オリンピックホールにはエレベーターがある点も魅力でした(ただし、エレベーターの待ち時間は長いです)。 Centennial Hall(セントニアルホール)はオリンピックホールとほぼ同じ設備ですが、ラウンジの充実度はオリンピックホールの方が高いと感じました。さらに、オリンピックホールとセントニアルホールでは毎日清掃が入るのに対し、サクソンは週 1 回のみという違いもあります。			

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: 持参した薬で対応しました。)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

もともとスキッドロウ周辺には近づかないよう注意していました。また、事件が発生した際には「旅レジ」に情報が掲載されるため、それを確認し、危険とされる地域には行かないようにしていました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

UCLA のキャンパス内では大学の Wi-Fi を利用しました。加えて、渡航前にギガ無制限の eSIM を 3 か月分購入して使用しました。ただし、寮では Wi-Fi がつながりにくく、電話が通じにくいこともありました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で新たに資金を調達することはせず、必要な支払いはすべてクレジットカードを利用しました。利用分は日本の銀行口座から引き落とされる形で対応しました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

薬やティッシュなどの生活必需品は日本から持参することをおすすめします。アメリカでは物価が高く、またサイズも大きいので、日本製のものの方が使いやすいと感じました。衣類や百円均一で購入できるような小物も、日本から持っていくと便利です。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

授業料は親にクレジットカードで払ってもらい、支払時期は 2 月下旬でした。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	☐ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Entrepreneurial Communication	
科目設置学部・研究科	communication
履修期間	A6 週間
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 125 分が 2 回
担当教授	Steve Peterson
授業内容	本授業は基本的に教授の講義を中心に進行し、自分のビジネス案をどのようにプレゼンテーションし、協力を得たり投資を受けたりするかを学ぶ内容でした。3 週目までは各自がビジネス案を決定し、一度プレゼンを行いました。その後、6 週目には、そのビジネス案を実際に実行するために必要となる費用の見積もりや、どのように資金を調達するかについて発表を行いました。これらのプロセスを通じて、起業に必要な実践的視点や戦略的な考え方を学ぶことができました。
試験・課題等	毎週リーディングが出され、2 回小テストを行いました。上記のとおり 2 回プレゼンを行いました。
感想を自由記入	授業にはおよそ 50 名の学生が参加しており、多様な国籍や年齢の学生がそれぞれ異なる考えを持っていました。教授からのフィードバックは常に全体の前で行われ、学生たちは積極的に意見交換をしている印象でした。一方で、大人数の講義形式であったため、友人を作るには自分から積極的に声をかける必要があると感じました。プレゼンテーションは 1 分半という短い制限時間があり、内容を凝縮して伝える点が難しかったです。また、毎週のリーディングに基づく小テストが 2 回行われ、常に予習復習が求められました。授業自体は非常に有益であり、特に他の学生のビジネス案を聞くことは刺激的で、学びを深める貴重な機会となりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Conversation and Fluency		
科目設置学部・研究科	ESL	
履修期間	A6 週間	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 150 分が 2 回	
担当教授	Lynn, Cooper	
授業内容	授業はグループ活動が多く、合計で 3 回の発表を行いました。学習内容自体は比較的簡単であり、知識を深めるというよりは、クラスメートとのコミュニケーションを楽しみながら進めていくような雰囲気でした。	
試験・課題等	グループ活動の具体的な内容としては、スラングに関するプレゼンテーションやスキッドの発表などがありました。また、個人課題としてネイティブスピーカーと 10 分間の会話をし、その内容を分析するレポートの提出も求められました。	
感想を自由記入	少人数の授業であったため、クラスメート全員と仲良くなれました。授業内容自体は比較的易しかったものの、毎回の課題は分量が多く、またグループで集まって取り組む必要があったため大変に感じることもありました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Organizational Psychology		
科目設置学部・研究科	psychology	
履修期間	C6 週間	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 125 分が 2 回	
担当教授	Scott Wimer	
授業内容	授業では組織心理学を扱い、人と意見が食い違ったときの対処法や、組織内でのリーダーのあるべき姿などについて学びました。	
試験・課題等	試験は中間試験と期末試験の 2 回のみで、出席点は設けられていませんでした。そのため、試験での成果が成績に直結する厳しい評価方法となっていました。	
感想を自由記入	この授業は「168」というレベルが高い科目であったため、受講している学生は意欲が高く、授業中は活発に意見交換が行われていました。教授も穏やかな雰囲気です。一方で、毎回のリーディングは約 60 ページと分量が多く、試験の評価比率が 100%であったため、体調不良などで授業を欠席すると一気に単位取得が難しくなる厳しさもありました。試験内容はリーディングと授業で扱われた内容から幅広く出題され、難易度も高く感じました。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☐就職 ☐進学 ☒未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	TOEIC 受験
	10 月 ～ 12 月	出願、トップユニバーシティ助成金応募
留学開始年	1 月 ～ 3 月	授業料や施設料の支払い
	4 月 ～ 7 月	I20 取得、ビザ取得、航空券購入、滞在先確保、留学開始
	8 月 ～ 9 月	留学終了、報告書提出
	10 月 ～ 12 月	
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

12 週間の留学生活は本当にあっという間に過ぎていきます。そのため、勉強と並行して行きたい場所があれば、あらかじめ計画を立てて出かけることをおすすめします。私は滞在中に 2 か所、留学後に 3 か所の旅行をしましたが、計画的に行動することで充実した時間を過ごすことができました。A6 で出会う留学生の多くは 6 週間で帰国してしまうため、早い段階から積極的に関わることが大切です。授業でわからないことがあっても、教授はオフィスアワーやメールを通じて丁寧に対応してくださるので、不安を抱える必要はありません。治安については注意が必要で、銃撃事件が発生する地域もあるほか、バスでは無賃乗車する人が多く、騒ぐこともありました。そのため、常に周囲に気を配ることが大切です。また、アメリカは物価が非常に高いため、服や日用品はできる限り持参することをおすすめします。日本のお菓子、特に抹茶味のものやグミは現地の学生にも喜ばれました。気候については雨がほとんど降らず、6 月・7 月は長袖で過ごす日が多かったです。室内は冷房が非常に強いため、長袖は必需品です。さらに、RA (Resident Assistants) が毎週のようにイベントを開催してくれるため、参加すると多くの学生と交流でき、友人を作る良い機会になります。授業のレベルは高く、そこで出会う学生も意欲的で魅力的な人が多いと感じました。総合的に見て、UCLA での留学は学びも人との出会いも非常に豊かであり、自信を持っておすすめできる経験となりました。